

常なる磐

つねなる いわ season II

令和 4年 1月28日(金)

その1

◇ 羽生 はにゅう？ はぶ？ はにふ？

少々前、将棋界と言えば「ひふみん」だったが、今や最強プリンス 藤井聡太 竜王。最年少五冠に挑む【王将戦】も連勝と、いい流れをつかんで明日からの第3局へ。

藤井聡太竜王時代のひと昔、最強と言われていたのがマジック羽生善治だった。さて、羽生…読めるだろうか。

それにしても将棋界、羽生のほかにも、佐藤天彦、行方尚史、安用寺孝功、都成竜馬、三枚堂達也……珍しい姓名の棋士が多いこと、多いこと。

そして、いよいよ間近に迫る北京冬季五輪。

アイススケートのエースは、「四回転半ジャンプ」に挑む不死鳥羽生弓弦だ。

それぞれの苗字羽生の読み方は、羽生 (は ぶ) 善治
羽生 (はにゅう) 弓弦。

※自分の新任時代、教え子に【土生(土から生まれる)】という生徒が学級に在籍していた。これも「はぶ」と読む。

片や「はぶ」、他方は「はにゅう」。興味がわいて、少しばかり調べてみた。

「はぶ」のルーツは種子島や屋久島、「はにゅう」は宮城県に多い。

ある取材班が種子島に出かけて調べてみたら、狭い島に「はぶ」姓が、70世帯も暮らしていた。将棋の羽生善治九段の祖父も種子島出身だという。

対して、「はにゅう」が多いのは宮城県。中でも登米市だが、羽生結弦選手の父も同市で生まれ育った。

どちらも大元では「埴」が関係しているらしい。「埴」とは、埴輪などをつくる赤土のこと。その赤土が採取できる場所が、「埴生」。そして、読み方が「はにふ」から「はぶ」になったり、「はにゅう」に転じたりしたらしい。

さらに出典は、以下のようにまとめられている。

日本書紀によると、埴生で土器をつくり、神を祀ったため、天下を治めることができていると記されている。「羽生」という苗字の由来は、不世出の天才二人にふさわしい。

なるほど。でもそれ以上に、「羽が生える」と記した文字使いが、何とも洒落だ。